

# 中日昔話における蛇婿の比較

## —「蛇婿と姉妹型」を中心に—

楊 静芳

はじめに

蛇と人間の女性の婚姻を語る話は世界中に存在し、中国と日本にも広く分布している。中国では「蛇郎」、日本では「蛇婿入り」と呼ばれるのが一般的である。

中国の場合には、吉林、遼寧、河北、山西、内モンゴル、上海、安徽、浙江、福建、湖北、湖南、河南、広東、広西、海南、四川、貴州、雲南、甘肅、青海などの地域で語られている。日本では、北海道を除く四六都府県に見られる。

「蛇郎」と「蛇婿入り」のモチーフを比較してみると、類似した要素が若干見られる。しかし、中国の「蛇郎」は蛇婿と娘の幸せな婚姻を語るのに対して、日本の「蛇婿入り」においては、幸せな婚姻は少なく、蛇はいつも退治される対象である。蛇を人間の祖先とみなす原始社会の蛇信仰はこういった話が発生した源とされた。しかし、信仰の推移に伴って、中日の蛇婿の話は幾多の

変化を経たために、中日の話における異なった蛇婿像が生じたと考えられる。

しかし、「蛇婿と姉妹型」のモチーフと一致したものは日本にも存在している。これらの話は、中日の蛇婿の話と比較する際に、重要な位置を占め、見落としてはいけない存在である。

### 一、先行研究について

広く語られている「蛇郎」は早くから研究者に注目されている。一九三七年に出版されたエーバーハルト氏の『中国民間故事類型』<sup>(1)</sup>において、「蛇郎」は一つのタイプとして上げられている。A T分類に基づいて作成された丁乃通氏の一九七八年の『中国民間故事類型索引』<sup>(2)</sup>では、「蛇郎」はA T四三三三タイプの下位に、A T四三三Dをたて、A T四三三三の中国タイプとして分類されている。二〇〇〇年に出版された金榮華氏の『中国民間故事集成類型索引』<sup>(3)</sup>において、「蛇郎」はA T四三三三D蛇郎君と分類されて

いる。これらの分類法からわかるように、「蛇郎」は数が多いが、話のパターンはある程度固定していると思われる。

一方、日本の「蛇婿入り」は大きく「苧環型」と「水乞型」に分類することができる。稲田浩二、小澤俊夫編集の『日本昔話通観<sup>4</sup>』によれば、二〇五A針糸型、二〇五B豆入り型、二〇五C立ち聞き型、二〇五D嫁入り型、二〇五E姥皮型、二〇五F鶯の卵型、二〇五G蟹報恩型、二〇五H娘変身型、二〇五I契約型と細かく分類されている。

中国の「蛇郎」と日本の「蛇婿入り」を比較する先行研究は多くない。しかし、中には注目すべきものも見られ、その一つとして、劉守華氏の「蛇郎故事比較研究」<sup>5</sup>があげられる。この論文は一九八七年発表された以来、今までの蛇婿研究に大きな影響を与え続けている。氏によると、中国蛇婿の話は四三三D蛇郎と姉妹の型、四三三E蛇退治型、四三三F始祖型と分類することができる。四三三Dは今日最も流布している型である。四三三Eは、宋の『太平広記』に収録された蛇の精の話<sup>6</sup>を指し、四三三Fは始祖伝説を指している。このうち、四三三Fは蛇は一族の祖先であったことを語り、蛇婿の最も古い形であるとされた。蛇のイメージの変化ははやく『太平広記』に認められる。『太平広記』は宋の時代に成立した文献であるが、その中に収録された蛇の精の語の典故は魏晉南北朝、隋、唐の志怪書であり、しかも、これらの蛇の精の話はそもそも民間故事であった。そこから、蛇のイメージの変化、つまり、神から妖怪へと扱われたことがわかる。劉氏は四三三D型と日本の蛇

婿入りを比較する際に、中国では蛇は神、日本では蛇は妖怪と見なされたことを指摘した。それは中日の蛇に関する信仰および中日の婚姻制度にかかわったとされた。一方、氏は日本の蛇婿入りが四三三E型に大きく影響されたと考えている。

于長敏氏の論考「蛇郎型故事」<sup>6</sup>は、劉氏の論考を補足したと言える。于氏は『古事記』のササノオノミコトのオロチ退治の神話は日本の蛇婿入りの祖形であるとし、『搜神記』の李寄斬蛇に影響されて成立したと述べている。要するに、日本の蛇婿入りの源流は中国にあると于氏は考えている。しかし、于氏の論考に詳しい論証がなく、まだ説得力を欠くと筆者は考えている。

中国における日本の蛇婿入りに対する一般認識は、志村三喜子氏の「イ族の昔話の底流——蛇婿入りと竜宮女房をめぐって」<sup>7</sup>によって定着したと言える。志村氏はこの論考の中で、

日本の蛇婿入りは、水乞型にしても、神婚ではなく邪神の蛇に対するいけにえとして娘を差し出す「狼神退治」系統の話に一歩近づいており、蛇には水神として田に水をはる力が残されているもの、嫁となる娘にはいけにえにされる者としての心境がうかがえ、蛇は退治される。苧環型でもそうで、三輪山の豊穰神に対する神聖な畏怖はなく、針一本で死に至り、蛇よけのまじないのいわれを教える話となつてしまっている。水は適度にあるならば豊かな実りを約束するが、ひとたび暴れ出すと、それは恐ろしい被害と災害をもた

らすものとなる。白田甚五郎は「水霊はそれこそ崇拜と恐怖との両刃を有する存在であった」(「蛇婿入り」、『屁ひり爺その他』)と述べているが、日本の昔話の蛇婿入りでは、恐怖が勝り、邪神退治につながっている。

と述べ、日本の蛇婿入りが邪神として退治された特徴を明らかにした。志村氏の論考は劉氏、于氏などの論文にも引用され、よく知られた研究である。

以上の先行研究によれば、現在中国で最も広く語られる蛇郎の話(以下、「蛇婿と姉妹型」と日本の蛇婿入りとの間には直接な影響関係は見られないのである。

## 二、中国の「蛇婿と姉妹型」

本稿は「蛇郎」を六〇例集め、表一で示した。この六〇例は、以下の七条のようにまとめることができる。モチーフに名をつけた。

① 爺(あるいは婆)が蛇に助けられ、娘の一人を嫁にやると約束する。  
[「男主人公の求婚」]

② 爺が娘たちに頼むと、上の娘は断るが末娘が承諾する。  
[「娘の嫁入り」]

③ 蛇が立派な男になり、末娘と豊かな生活を送る

④ 姉が嫉妬し、末娘を殺し、末娘に擬装して蛇郎の妻になる。  
[「幸せな暮し」]

⑤ 末娘が鳥になり、姉の仕事の邪魔をするので、小鳥が殺される。小鳥の骨を捨てると、そこに木が生える。木は、姉の邪魔になるので焼かれる。(話によって、他の変化もある。)

⑥ 蛇郎(あるいは隣人)の助けなどで、末娘は生き返る。  
[「妹の転生」]

⑦ 姉は報いを受ける。蛇郎と末娘は幸せに暮らす。  
[「妹の蘇生」] [「結末」]

具体的に、①「男主人公の求婚」において、六〇例の該当部分を見れば、蛇に何かをしてもらう代わりに娘をあげることが最も多く見られる。そのうち、「父親が花を摘むと蛇が現れ、娘を嫁にもらう約束をして花をくれる」というパターンが、地区や民族に関わらず、最も多い。「蛇が父親の落した斧を拾い出してくる。父親が娘をやると約束する」というパターンは、山西省、内モンゴル、甘肅省、青海省などの北の方の地域に見られ、また、「父親が畑を耕してくれた者に娘をやると言う」と、蛇が耕してくれる」というパターンは浙江省、湖北省、広西省に見られる。「父親が木を倒してくれた者に娘をやると言う」と、蛇が木を倒してくれる」とや「父親が大きな石を動かしてくれた者に娘をやると言う」と、蛇が石を動かしてくれる」、「母親がチガヤを担げないと蛇が

現れ、娘を嫁にもらう約束をさせる」というパターンもあるが、広西省、貴州省、雲南省、四川省の少数民族の話に集中している。そのほかに、蛇が爺（あるいは婆）を脅かして娘をもらう描き方は、北から南の地域の話に見られる。さらに、援助と脅迫で嫁をもらうのとは異なり、蛇が直接求婚する例もある。

その後、蛇と約束した爺（あるいは婆）は、娘たちに結婚の話をする。今回、集めた話では、二人、三人、五人、または七人姉妹の場合もあるが、どんな場合においても、求婚を承知するのはいつも末娘である。しかも、豆、菜種、ゴマなどを蒔きながら嫁入りする場面がしばしば出てくる。①「男主人公の求婚」と②「娘の嫁入り」は、「蛇婿入り・水乞型」の前半部分に該当するが、それ以降の展開は日本の「蛇婿入り・水乞型」と違う。「蛇婿入り・水乞型」では、娘は針千本とひょうたん千個を持って、知恵を使って、蛇を殺す。しかし、中国の「蛇郎と姉妹型」の話においては、娘は蛇婿と結婚してからも幸せな生活を送る。殆どの例で、蛇は立派な男に変身することができる。蛇は皮を脱いで人間になるのが一般的であるが、広西省（例30）、貴州省（例44）、雲南省（例52）の例では、その正体が竜王、あるいは竜王の息子であると描かれている。

翌年、妹は蒔いた種などの芽を辿って、妹が実家に帰る。姉が芽を辿って妹の住んでいる所を訪ねる場合もある。そのとき、姉は妹の幸せな生活を妬んで、妹を殺して、妹になりすまして蛇郎の妻になる。殺す方法としては、殆ど水死させて殺害するのであ

る。井戸、川、池などへ姉が妹を押し込んだり、熱湯をかけたりに殺すのが一般的であるが、雲南省の例では、洞窟の中に押し込んで殺す場合（例47）や、山の崖へ突き落して殺す場合（例53、例56）もある。しかも、殺す前に、姉は妹を騙して、妹と服飾り物などを取り替えるのが一般的である。

⑤「妹の転生」において、殺された妹は転生して、復讐する。たとえば、福建省永春県、漢族の「蛇郎君」（例17）においては、妹は小鳥に生まれ変わり、姉の悪事をさえずると、姉は小鳥を殺して煮る。蛇郎はおいしく食べるが、姉が食べるとますますなる。姉が肉を捨てると、そこに竹が生える。姉が竹椅子と竹筵を作ると、蛇郎は気持ちよく使うが、姉が使うと痛くなる。姉が椅子と筵を焼くと、隣の婆が灰をもらいにきて灰の中の亀を持ち帰るというように、鳥から竹へ、竹から亀へと変化する。たとえば、四川省珙県、漢族の「蛇郎と禿げの女」（例41）においては、妹は「鳥↓イラクサ↓サンシヨウの木↓果樹」というように四回も変化する。転生の回数是一定ではないが、転生の順は鳥類から植物類へ、植物類から金属類、または他の物へとほぼ定着しているように見える。

⑥「妹の蘇生」において、その展開は他力で生き返るのと同じ力で生き返るのに分けることができる。他力で生き返るのは概ね「隣の家で生き返る」と「夫に助けられて生き返る」に分けることができる。前者は十八例、後者は十二例見られる。前にあげた福建省永春県、漢族の「蛇郎君」の例の続きには、隣の婆が亀を

持つて帰り、水甕に入れると亀が美人になり、家事を手伝うとある。また、安徽省、漢族の「菜瓜蛇の故事」(例10)のような例もよく見られる。この話では、妹は「鳥↓棗の木↓黄金の人形」と三回生まれ変わる。隣の婆がこっそり黄金を持って帰ると、黄金の人形が妹になり機を織ると描かれる。「夫に助けられて生き返る」については、蛇郎が妹に仙丹を飲ませると、妹が人間の形になる例や、蛇郎が法術を使つて妹を復活させる例、蛇郎が夢の中に現れた妹に教えてもらった方法で妹を生き返らせる例などがあげられる。以上のほかに、妹が漁師に救われる例(例35)、妹が南海観音に救われる例(例37)も見られる。自力で生き返るといふのは、妹が数回にわたつて生まれ変わった後、元の姿に戻るということである。たとえば、吉林省漢族の「蛇郎と三番目の娘」(例1)では、妹は「鳥↓草↓果実」という転生過程を経て、果実から出てくる。あるいは、湖北省トゥチャ族の「蛇婿」(例21)では、姉が雀を蒸すと妹が出てくるのである。

⑦「結末」は「姉が自業自得の報いを受け」、「夫婦団らん」で終わるのが一般的である。前にあげた福建省永春県漢族の「蛇郎君」の例の結末は、婆の孫が蛇郎に出会つて、蛇郎を家に連れて帰ると妹は蛇郎に真実を訴え、夫婦は団欒する。その後、姉は竹になる。さらに、姉が恥ずかしくて自殺する例や、姉が怖くて逃げる例も少なくない。要するに、結末の部分は善良な人こそ幸せが得られ、悪い人が必ず懲罰を受けることを強調している。

以上の分析から、中国の「蛇婿と姉妹型」の話は蛇郎と人間の

婚姻譚および姉妹の葛藤という二つの部分からなっていることがわかる。どちらも話の重要な構成部分である。

### 三、日本の「蛇婿と姉妹型」

日本の蛇婿がいつも退治される対象であることは、すでに先行研究によつて明らかにされている。蛇婿と妹が幸せに暮らす例がないわけではないが、あまり注目されていない。<sup>(8)</sup>前述したように、「蛇婿入り」の話に、中国の「蛇婿と姉妹型」のモチーフと全く一致するものも存在している。

日本にある「蛇婿と姉妹型」に類する話は、二例見られる。一例は沖永良部島にあり、もう一例は奄美大島にある。沖永良部島の例は、岩倉市郎氏の『沖永良部島昔話』<sup>(9)</sup>に収録されていて、「蛇婿入り」と題されている。

#### 例一 大島郡知名町・差司窪盛(男)

シン長者が女の子を三人持っていたが、一番末の娘が十五歳の時彼女等の母が死んだ。一七日の祭をするには、忌拂薪を取らなければならぬ。父は山へ行つて其薪を沢山とつてまらけて、担ぎ上げようとしたが重くて上げる事が出来ないで、「誰かこれを肩めらせる人があれば、三人の娘のうち誰でも一人は呉れて良いが——」と独言をいうと、其所へアマタ(蛇の一種)があらわれて、「本当に呉れるね」と言

う。父はこんな者が上げ得るものかと思つて、「三人のうち一人選んで上げる」と言つた所が、蛇はすぐ薪を肩に上げてくれた。大変な事になつた、言つた以上呉れてやらぬばならない——。父はうちへ帰つて薪を下して、心配の余りアシ（昼食）もたべずに蒲団被つて寝た。

娘三人が野原や他所から帰つて来た。父は一番上の二十歳になる娘に向つて、「今日は斯々の次第であつた（話者は此所で事の次第を繰返し語る）、お前は蛇の妻になつてくれぬか」と言つと、「人間の妻にはなれるが、獣の妻になんかなれない」と言つ。二番目の十八歳になる娘に話すと、これも出来ないと言つ。もう仕方ない——。三番目の十五歳になる娘に話すと、「私とその妻になります、親に生されて親の言う事を聞かぬという事はない」と言つ。「そうして呉れ愛する子供、もう聽て迎えに来る筈だから」と話している所へ、立派な人が糸衣裳（絹の着物）を着て来られて、明後日根引（嫁迎え）するからと言つて、持参（土産物）なども持つて来た（これが夫になる人である）。その持参持ちの人々も皆立派な人々ばかりである。いよいよ明後日になると、迎えの者がやつて来て父も姉さん達も共に来て下さいと言つので、皆行つた。そうして御馳走を受けて、二番娘と父は帰り、一番の姉はその家に泊つた。

三日泊つてから一番の姉が妹に、「親ゲンド（見参）に行こう」と言つて、妹を連れて家を出た。途中に溜池がある。

姉が「此所で浴びよう」と言つと、妹は嫌だと言つ。それを是非浴びよと言つて、姉は無理に妹の着物を取つて浴びせて、そうして池の中に押込んで殺した。翌日姉は妹の仕度をして、男の家へ行つた（妹に擬装してその妻になつた）。

死んだ妹は鳥になつた。夫が食事をする時飛んで来て其膳の上止つて飯をかき回す。姉が芋を紡むと又それをかき乱す。「あんな奴殺してしまひましよう」と女が言つと、男はそうしようと言つて、其鳥を殺してマキ（豚小屋）に捨てた。所がマキの中に桑の木が生えて、彼等が其所へ行く時、枝を差延べてじゃれかかる。「あんな桑の木取つて焼きましよう」と女が言つと、そうしようと言つて夫は桑の木を焼いた。焼いて起火にしてフーと吹いたら、その起火がチリチリと飛んで行つて姉の眼を焼いた。姉はめくらになつて、或る日マキへ行つたら、マキの石垣が崩れて姉はその下敷になつて死んだ。

死んだ本當の妻が夫に夢を見せた。自分は溜池の脇の穴の中に死んでいる。この前焼いた桑の木の灰を持つて来て死骸に振りかければ元の人間になる、と言つのである。夫は灰を持って行つた。妻の死体は死んだ者とも思われな程生々していた。灰をかけたら妻は生き返つた。夫がどうした事だと訊くと、妻は斯々と次第を語つた。そんなら早く夢を見せれば良かったと、夫が言つた。死んだ姉の死骸はその穴に埋めた。二人は元の通り夫婦になつて、今が今までもともに居る。

とある。この話は、話者差司窪盛氏が十六歳くらいの時、隣の老人に聞いたものだという。一九三六年採集当時は五六歳なので、この話は差司氏が一八九六年頃聞いたものとわかる。

もう一例は、立命館大学説話文学研究会編集『奄美・笠利町昔話集』<sup>(10)</sup>に収録されていて、題目は「偽の花嫁」である。それは次のような話である。

## 例二 大島郡笠利町・碓重武(男)

唐芋を掘りにね、そのおつかさんが行った。昔はね、芋で、一日三度芋で、御飯は炊かずに芋で昔は、食事をしちよったから、畑一杯芋を植えつけてあった昔は。それで芋掘に行つて、その戻りは雨が降つて、川が昔は今のようにはなかつたわけよ、川は。だからもう渡られなかつたわけ。でマッタゴちゅってね、蛇、——人にはどうにもしない蛇よ。マッタゴちて、赤い色して、こんなもの、——そんなマッタゴが化けるわけ。マッタゴちうは女に化けたり男に化けたりするわけ、だからそのマッタゴが、

「自分が助けますから」ちて、「渡しますから」ちて、そのマッタゴの上からそのおばさんを渡したそう。へで家に帰つて来て、まあ女の子が二人おつた。そう、姉妹が、二人おつて、その二人の子供は一人はどうしてもあげりゃもらうちゅうから

「自分を助けた人だから、あんた行きなさいよ」ちゆたら、姉さんの方から、「行け」ちおつかさんが。姉さんは、「行かん」ちうたわけ、「あんなものにはもらわれん」とか。そしてところが、妹はね、

「親を助けた人間なれば自分が行く」と、それで「おつかさんおつかさん、豆を下さい」豆ね、その豆をもらつてその人と一緒に、豆を落として行つたわけよ。

「おつかさん」ち、「これが萌えた頃にはおいでなさい」と。「これが萌えた頃に」。萌えにやわからんから。どっちに行くかわからんからね神様か人間か分からんから、そんな人は。だから妹はそう思つて、豆をもらつたわけよ。自分はこんな人は人間じゃないと思つたわけよ。妹は、だから豆をもらつて、自分が落し行くから、

「生える時は必ず家に来なさい」ち、おつかさんに言うて行つたわけ。それが生えたわけよ、行つたわけ。行つたけど、もうバンクワンする家におつてよ、おつて。それが着物が亡くだちゅうてね、七重ね着物を着とつたんです、そんな女子が。

「どうして、旦那さんはどうしとる」

「もう御天道様に一週間、こつちに一週間務める神様だよ」ち、そういうわけ。

「そうか」、そんなこんだ姉さんに言つて見せてみにゃいかんちて。そう、とにかく言わなければ良かったのに、姉さんに。目がちよつと姉さんは、目すうちゅうんが出て、目がは

しけておったそうだね。「姉さんここ行つてごらん、おうお前が行けば楽しとったが」ちゅうて。

「そうか」ちて、行つたわけよ。行つたところが、もうその家に着いて、その時まだ旦那さんが帰つておらなかつたわけよ、

「何でお前一人なんでそうほつとしちよるね」ちつたら、

「いや自分の旦那さんはね、御天道様に一週間こつちに一週間おる神様よ」ち。

「そうか」、そうしたところ姉さんが言うのにな、

「お風呂焚くから、お風呂入れ」、

「いや、入られん」ち、「その人が来んうちには、こん着物は脱ぐことが出来ない」ちゅうたわけ。

「いやそれは構んから、あんた一週間ほどその下では、体がものならんから、お風呂入らんばいかん」ち。お風呂沸かして、無理矢理着物を脱いで、入れたそう。入れてガンガン沸かして、蓋閉めて、死なしたわけよ、そんな妹を。自分がちゃんと着物を着て坐つとったそうです。ところが、降りて来て、

「どうも今迄すまなかつた」ちこう言うでしょう。「御苦勞さん」ちゅうて、旦那さんが、

「なんでお前は目がこうなつたつとるえ」ち、

「それはあんたがお待ちどうしで、上ばっかりこう見ておつたから、目がはしけた」ちちゅうわけよ、目がこうはしけた。

「そうかふうん」ちし。それが分らんわけよ、姉妹じゃつて、分らんでしょね。

たところが隣の客に招待を受けた。そんな妹が化けてね、隣の内に招待があるから、あんたたちを招待するからちゅうて、隣の家から、その隣の家へ招待行つたわけよ。御馳走するからちゅうて、それが妹が化けたのよ。化けて、そんな旦那さんが言うに、

「この御飯はね、かたごて、半分は煮てるわけよ、半分は生米、お汁だったら半分は、辛い、半分は甘い」。そういう具合にしてあつたわけよ。たらその妹が言うわけね、「旦那さん旦那さん、食事の味は分るのに、なんで嫁の入れ替わり何で分らんか」ち、そんな時、そんな姉さんは、妹にそう言われたところ、忽ち虫になつたわけよ、だからメラベ虫ちゅう、メラベは人間からなつた。

両者のモチーフはかなり近いにもかかわらず、題目が異なつてゐるのは話者あるいは採集者の認識によるものなのであろう。発端である蛇の求婚から妹が蛇の要求に応ずるまでの部分は「蛇婿入り・水乞型」のそれに該当するが、その後の展開は大きく離れていて、中国の「蛇婿と姉妹型」に良く似ている。

一方、男主人公の蛇を按司や殿様など人間の男に変換した話も見られる。表二に示した例三から例十二までの十例が該当する話である。大島郡に六例、八重山郡に四例ある。分布状況について

て、例一から例十二はいずれも南島で伝承されている。『日本昔話通観』の鹿兒島巻と沖繩巻に収録された「蛇婿入り」の話を確認した限りでは、日本列島の他の地域と同様、「苧環型」と「水乞型」の話が最も多く伝承されているが、これら十二例は鹿兒島県の大島郡と沖繩県の八重山郡に集中していることは注意すべき点である。

南島の話と中国の話と比較してみると、南島十二例の話の内容は、前述した中国の「蛇婿と姉妹型」についての要約によくあてはまる。

まず、発端の①「男主人公の求婚」については、南島の例三から男主人公が人間になるが、「蛇婿入り・水乞型」の痕跡がはっきり留められている。とはいえ、援助の内容は、「蛇婿入り・水乞型」の該当部分と異なる。爺が日照りに困って、田に水を入れてくれた者に娘をやるという言葉と蛇が水を入れてくれるという「蛇婿入り・水乞型」の一般的なパターンに対し、南島の十二例は薪を担いでくれたり、川を渡してくれたりする形になる。これを中国の「蛇婿と姉妹型」の六〇例の該当部分と比べると、同様に蛇に何かをしてもらう代わりに娘をあげるという発端を持っている。具体的な内容を見ると、例54雲南省景洪県ジーヌオ族「沙切と蛇郎」の「母親がチガヤを担げないと蛇が現れ、娘を嫁にもらう約束をさせる」と、例59雲南省永徳県漢族「蛇郎」の「母親が草を担げないと蛇が現れ、娘を嫁にもらう約束をさせる」のようなパターンは南島の「薪を担いでくれる」に近い。

次に、②「娘の嫁入り」では、男の求婚に承知するのは常に末娘である。これは南島の十二例と中国の六〇例に共通するところである。そして、すべての例においては、中国の例と同じ、妹と蛇婿が結婚してから幸せな生活を送る。

④「妹を殺害する」の条になると、中国の殆どの例と同じように、南島の十二例は池、風呂、井戸、水の中、川へ妹が妹を押し込んで殺す。要するに、水の中で殺害する。

⑤「妹の転生」の部分は、南島十二例の中の九例に見られる。一回、二回、または三回転生する場合もあるが、鳥類から植物類へ、植物類から金属類、または他の物へという転生の順が中国の例に共通する。

⑥「妹の蘇生」については、南島の例はいずれも妹が他力で生き返るものであり、それは、「夫に助けられて生き返る」と「隣の家で生き返る」という二つのパターンに分けられる。「夫に助けられて生き返る」のは、例一のみである。具体的に、妹が夫の夢に現れて、自分を復活させる方法を教える。中国の例の中に、夢を通して生き返る方法を教える例が五例(例5、26、59、64、65)確認できる。「隣の家で生き返る」のは九例見られる。八重山郡竹富町竹富の例(例九)は、典型的な例である。この話においては、妹が「鳥↓松の木」と二回生まれ変わった後、姉が松の木を焼く。隣の婆が火をもらって帰ると、火が黄金になる。黄金は妹になり機を織る。このような例は中国の例にも数多く見られる。

⑦「結末」は、中国の例と同じ、「姉が自業自得の報いを受け」、「夫婦団らん」で終わるのが一般的である。「まずい料理をして男を招待し、真実を訴える」ことを通して夫婦が元どおりになった例が九例もある。中国では、それは一例(例43)しか見えない。さらに、南島の例一を除く他の例では、姉が虫になると語られる。中国のそれは、一例(例33)しか見えない。

以上、話を構成する部分を一つずつ見てきた。完全に同じというわけではないが、「水乞型」の導入部だけ留められている南島の十二例は、日本で広く語られる「蛇婿入り・水乞型」より一層、中国の「蛇婿と姉妹型」に類似することが確認できた。

しかし、従来の認識では、たとえば、関敬吾氏の『日本昔話大成』<sup>(11)</sup>において、例三から例十二のようなものは、継子譚の低位に分類された「白鳥の姉」の中に収めている。福田晃氏は、関敬吾氏の分類を受け継いで、十二例のことを「白鳥の姉」の延長の中で伝承されてきたものとし、「白鳥の姉」複合譚と呼ぶ<sup>(12)</sup>。以上の二氏と違って、『日本昔話通観』のタイプ・インデックスは、例3と同じ種類のことを「姉と妹」タイプと分類した。その注に、「奄美地方では継子話や蛇婿入りの形をとることも多く、継子の姉は結婚のあと継母に煮殺され白鳥に生まれ変わる。ただし主題は婚姻をめぐる葛藤で、同一タイプの変形として扱う」と書いてある<sup>(13)</sup>。しかし筆者は、例三からの十例は、例一と例二の変形であると考ええる。南島の例一と例二は中国から伝わってきたものであり、そして例三からの十例に変形したのではないかと考えている。

#### 四、「蛇婿と姉妹型」の伝播および変容

中国の「蛇婿と姉妹型」が南島に伝来した可能性を考えるには、まず中国での分布を確認する必要がある。中国の六〇例の分布状況を見ると、該当話は中国大陸の広大な地域で伝承され、強固な基盤を持つている。しかし、伝承の密度から見れば、長江以南の地域が数の大半を占め、雲南省だけで十一例もあった。長江以南の地域は古代の越人が住んでいる地域である。この地には蛇が多く、この地の先住民は蛇のことについて詳しいため、蛇崇拜も他の地域より強かった。

たとえば、雲南省福貢県で採集されたヌー族の始祖神話「蛇と人間の結婚」<sup>(14)</sup>は蛇氏族の由来を語る話であり、蛇を人間の祖先に高める。

昔々、機織りと歌が上手な娘がいた。ある巨大な蛇が娘の歌声に心を打たれて、小さな虫に変身し、娘が歌うたびに娘のそばにやってきた。娘が怒り、もう二度と来ないようにと言うと、虫が結婚を承知してくれば、人間になると言う。娘が承知すると、虫が人間になる。二人が結婚して生まれた子は、蛇氏族であったという話である。

この話は今でも語られている。あるいは、雲南省のペー族の「三番目の娘と蛇氏族」も似たような始祖神話である。

さらに、考古学においては、古滇国(紀元前二七八年—

一一五年)の遺跡から出土した青銅器から、滇池周辺の雲南省中部及び東部で生活していた越人の蛇崇拜が説明される。たとえば、李家山遺跡から発見された数千点の青銅器は、蛇文様のあるのが多くを占めるのだが、それらは古滇国の戦争、生産、生活などの面を反映しているとともに、古滇人の蛇崇拜を表しているというのだ。<sup>(15)</sup>

歴史学者の羅香林氏は「古代百越分布考」<sup>(16)</sup>の最後で、「蛇郎」の話に言及した。氏によると、「蛇婿と姉妹型」の話は幾多の変遷を辿ってきたが、その最も広く分布している地域がちょうど越族の分布地域と重なったので、その起源と伝播は必ず蛇をトーテムとした越族と確実に関わっているとした。氏の推論は劉守華氏などその後の研究者に認められた。この推論の裏付けになるかもしれないが、越人が住んでいる地域でもある現在のベトナムにも、越人が大量に移住してきた台湾にも、「蛇婿と姉妹型」の話が存在している。<sup>(18)</sup>長江以北の漢民族との融合の過程に、該当話が北の方へ伝播していったのだろう。しかし、朝鮮半島にその話が見られない。なので、南島の例は古代越人の地から直接伝来したものが、あるいは台湾を経て伝来したものと考えられる。

しかし、「蛇婿と姉妹型」は、南島に留まって南島以北の地方に伝播しなかった。日本全土に分布している「蛇婿入り」の話において、蛇は常に退治される対象である。吉野裕子氏によれば、蛇は水の神だけではなく、その第一義は祖先神、宇宙神である。<sup>(19)</sup>しかし、そういった動物崇拜の思想が昔話において、智慧による人間の動物支配へと転換した。<sup>(20)</sup>嫌悪と恐怖という蛇のイメージが昔

話に根強く定着したため、蛇を崇拜の存在として語る「蛇婿と姉妹型」は日本に伝来したが、広く受け入れられなかったのである。

それにも関わらず、「蛇婿と姉妹型」は南島に伝播している。福田晃氏が言うには、「南島においては、久しく按司ガナシの妻は、霊界に通じるノロ・ユタの系譜のなかにあつて、按司ガナシのまつりごとを支えてきた。しかも、そのノロ・ユタたちは、かの主人公たちに準ずる人生体験を通して、霊界に通じる資格を獲得するものであつた。」<sup>(21)</sup>このような社会的背景があるがゆえに、「蛇婿と姉妹型」にある女主人公の転生・蘇生の話が南島において認められやすかつたのではないか。また、蛇に対する信仰が薄くなつたため、蛇体を按司もしくは殿様という現実社会の人物に変換されたのではないか。それによって、話の真实性が一層高まつた一方で、話の構造はほぼ元々の形を保つことができたのだろう。

### おわりに

以上、中国で最も広く語られている「蛇婿と姉妹型」の話を日本の南島の例と比較して、その影響関係を検討してきた。中国の「蛇婿と姉妹型」の話は、日本に伝来してから南島に留まつた。その後、南島の人々に受け入れられやすい形に変容してきたのである。ゆえに、南島の例のうち、蛇婿を男主人公とした二例は、按司を男主人公とした十例に先行していると十分に考えられる。それに従えば、南島の十二例は同一類型であり、蛇婿入りの一類型として確立されるべきではないだろうか。

妹の転生	妹の蘇生	結末	備考	出典
鳥→草→果実	妹が果実から出てくる。	姉が死ぬ。夫婦団らん。		『中国民間故事集成』編輯委員会編『中国民間故事集成 吉林卷』中国文联出版公司、1992年。
鳥→木		上の姉がおき火で禿げになり、かまどに飛び込んで死ぬ。	三人の娘が白菜の精である。	『中国民間故事集成』編輯委員会編『中国民間故事集成 遼寧卷』中国 ISBN 中心、1994年。
鳥		姉が怖くて死ぬ。蛇郎が悲しみのあまり鳥になる。		劉学軍主編『喀左・東蒙民間故事7』遼寧民族出版社、2008年。
鳥		姉が怖くて死ぬ。鳥がずっと蛇郎のそばにいる。		劉学軍主編『喀左・東蒙民間故事9』遼寧民族出版社、2008年。
鳥→桃の木	夫の夢に現れ、生き返る方法を教える。	継母と実子が生き返った継子を見ると怖くて淵に落ちる。夫婦団らん。		辛集市民間文学三套集成編委会『故事歌謠選 辛集市民間文学資料 第4卷』1988年。
鳥→杏の木→はさみ	次女がはさみを落とすとはさみが娘になる。	蛇が釘が突いた橋を歩けるかを試し、本当の妻を見分ける。偽の妻が死ぬ。		『中国民間故事集成』編輯委員会編『中国民間故事集成 河北卷』中国 ISBN 中心、2003年。
鳥→サイカチの木→はさみ	隣の婆が火をもらって帰ると、妹になり機を織る。	蛇が煙突を通れるかを試し、本当の妻を見分ける。偽の妻がカラスになる。夫婦団らん。		王建武他編『舜鄉故事』山西省絳縣新華印刷局、1998年。
鸚鵡→棗の木	かまどで機を織る。生き返る方法を蛇婿に教える。	姉が追い出される。夫婦団らん。		賈芝、孫劍冰編『中国民間故事選』人民文学出版社、1958年。
鳥→金のなる木→金のはさみ→虎	娘が夜中に機を織る。蛇郎は仙丹を飲ませると、娘が人間の形になる。	姉が虎にびっくりして死ぬ。夫婦団らん。		『中国民間故事集成』編輯委員会編『中国民間故事集成 上海卷』中国 ISBN 中心、2003年。
鳥→棗の木→黄金の人の形	隣の婆が黄金をこっそり持って帰ると、娘になり機を織る。	髪の毛が夫の髪の毛といっしょにまとまるかを試し、本当の妻を見分ける。偽の妻が蛇に食われる。		『中華民族故事大系』編委会編『中華民族故事大系 第1卷』上海文芸出版社、1995年。
鳥→蛇		姉が妹から変わった蛇に噛まれ死んでしまう。		『中国民間故事集成』編輯委員会編『中国民間故事集成 浙江卷』中国 ISBN 中心、1997年。
	父親が真実を蛇に教える。蛇が法術を使って、娘を生き返らせる。	一番目の姉が犬になり、二番目の姉が豚になる。夫婦団らん。		『中国民間故事集成』編輯委員会編『中国民間故事集成 浙江卷』中国 ISBN 中心、1997年。
鳥→竹	竹でできた椅子が焼かれると、娘が飛び出してくる。	姉が蛇に食われる。夫婦団らん。		劉文起主編『温州文学五十年：民間文学』瀋陽出版社、1999年。
雀→竹→西瓜	西瓜から娘が出てくる。	姉が割れた西瓜の破片に的中し、死ぬ。夫婦団らん。		白庚勝主編『中国民間故事全書 浙江・平陽卷』知識産権出版社、2011年。
鳥→竹	蛇が法術を使って、娘を生き返らせる。	姉が蛇婿の本当の姿にびっくりして死ぬ。夫婦団らん。		白庚勝主編『中国民間故事全書 浙江・秦順卷』知識産権出版社、2011年。

表一 中国の例

	採集地	伝承民族	題目	男主人公の求婚	娘の嫁入り	幸せな暮し	妹を殺害する
1	吉林省公主岭市	漢族	蛇郎と三姑娘	蜜蜂が蛇に頼まれて求婚する。	三番目の娘が承知する。菜種を蒔きながら嫁入りする。	豊かな生活をすする。子供が生まれる。	姉が妹を井戸の中へ突き落して殺す。
2	遼寧省大連市	漢族	蛇郎	蛇郎が求婚する。	三番目の娘が承知する。	幸せに暮らす。	姉が妹を井戸の中へ突き落して殺す。
3	遼寧省朝陽市喀喇沁左翼蒙古族自治県	モンゴル族	長女と蛇郎	父親が花を摘むと蛇が現れ、娘を嫁にもらう約束をして花をくれる。	三番目の娘が承知する。	豊かな生活をすする。	姉が妹を殺す。
4	遼寧省朝陽市喀喇沁左翼蒙古族自治県	モンゴル族	三妹と蛇郎	父親が山へ薪を取りに行くときと蛇が現れ、娘を嫁にもらわないと殺すと脅迫する。	三番目の娘が承知する。	幸せに暮らす。	姉が妹を川に押し込んで殺す。
5	河北省辛集市	漢族	少女と蛇郎	蛇郎という人間の男が求婚する。	継子が承知する。	幸せに暮らす。	継母が継子を井戸の中へ突き落して殺す。
6	河北省蘆龍県	漢族	花花蛇と翠花	蛇が父親を捕まえ、彼に一人の娘をくれることを承諾させられる。	三番目の娘が承知する。	豊かな生活をすする。子供が生まれる。	次女が妹を川に押し込んで殺す。
7	山西省垣曲県	漢族	蛇と村娘	蛇が父親の落した斧を拾い出してくる。父親が娘をやると約束する。	二番目の娘が承知する。	幸せに暮らす。	姉が妹を川に押し込んで殺す。
8	内モンゴルウラダ前	漢族	蛇郎	蛇が父親の落した斧を拾い出してくる。父親が娘をやると約束する。	七番目の娘が承知する。	幸せに暮らす。	二番目の姉が妹を川に押し込んで殺す。
9	上海市静安区	漢族	蛇郎と三姑娘	父親が花を摘むと蛇が現れ、娘を嫁にもらう約束をして花をくれる。	三番目の娘が承知する。ゴマを蒔きながら嫁入りする。	幸せに暮らす。	二番目の姉が妹を川に押し込んで殺す。
10	安徽省	漢族	菜瓜蛇の故事	蛇が父親を捕まえる。蛇に一人の娘をやると約束すると放してくれる。	三番目の娘が承知する。ゴマを蒔きながら嫁入りする。	幸せに暮らす。	姉が妹を川に押し込んで殺す。
11	浙江省象山県	漢族	蛇郎との結婚	父親が花を摘むと蛇が現れ、娘を嫁にもらう約束をして花をくれる。	三番目の娘が承知する。菜種を蒔きながら嫁入りする。	豊かな生活をすする。	一番目の姉が妹を井戸の中へ突き落して殺す。
12	浙江省青田県	漢族	蛇郎	父親が畑を耕しに行くときと蛇が現れ、娘を嫁にもらわないと殺すと脅迫する。	三番目の娘が承知する。ゴマを蒔きながら嫁入りする。	幸せに暮らす。	一番目の姉が妹を井戸の中へ突き落して殺す。二番目の娘がまた姉を井戸の中へ突き落して殺す。
13	浙江省温州市	漢族	蛇郎と三妹	父親が花を摘むと蛇が現れ、娘を嫁にもらう約束をする。	三番目の娘が承知する。	豊かな生活をすする。	一番目の姉が妹を井戸の中へ突き落して殺す。
14	浙江省平陽県	漢族	蛇精と小奶兒	蛇が父親を捕まえ、彼に一人の娘をくれることを承諾させられる。	下の娘が承知する。	幸せに暮らす。	姉が妹を池に押し込んで殺す。
15	浙江省泰順県	漢族	阿妹と蛇の結婚	父親が山へ薪を取りに行くときと蛇が現れ、娘を嫁にもらわないと殺すと脅迫する。	三番目の娘が承知する。菜種を蒔きながら嫁入りする。	幸せに暮らす。	一番目の姉が妹を井戸の中へ突き落して殺す。

妹の転生	妹の蘇生	結末	備考	出典
鳥→竹→マントー	マントーが娘になる。	姉が追い出される。夫婦団らん。		廈門市民間文学集成編委會編『中国民間故事集成 福建卷 廈門市分卷』1991年。
鳥→竹→亀	炭を借りに来た隣の婆が亀をもらって帰ると、美人になり家事を手伝う。	娘が男を招待し、真実を訴える。姉が竹になる。夫婦団らん。	蛇が竹を嫌がる由来を語る。	中国民間文学集成全国編輯委員会『中国民間故事集成 福建卷』中国 ISBN 中心、1998年。
雀→竹→黄金の人形	黄金の人形が妹になる。	姉がびっくりして階段から落ちて死ぬ。夫婦団らん。		鐘雷興主編『閩東畬族文化全書 民間故事卷』民族出版社、2009年。
魚→竹→鳥	隣の婆が法術を使って、娘を人間の姿に戻らせる。	姉がカラスになる。		武士明、趙進峰編『中国民間故事全集』西苑出版社、2011年。
ヒョウタン	ヒョウタンから妹が出てくる。	姉が怖くて逃げたら、転んで死ぬ。夫婦団らん。	蛇の脱皮の由来を語る。	鄂西土家族苗族自治州民族事務委員会、文化局主編『鄂西民間故事集』中国民間文学出版社、1989年。
雀	雀を蒸すと妹が出てくる。前よりきれいになる。	姉もきれいになりたくて、蒸してくれと頼んだら、死んでしまう。		蕭国松主編『中国民間故事全書 湖北・長陽卷』知識産権出版社、2007年。
鳥→竹→金の菩薩の像	金の菩薩が娘になる。	姉が追い出される。夫婦団らん。		中国民間文学集成全国編輯委員会『中国民間故事集成 湖南卷』中国 ISBN 中心、2002年。
ガビチヨウ→竹→菩薩の像	菩薩の像が娘になる。	姉が怖くて死ぬ。夫婦団らん。		中国民間文学集成全国編輯委員会『中国民間故事集成 湖南卷』中国 ISBN 中心、2002年。
花	花が娘になる。	姉が逃げて死ぬ。夫婦団らん。		車錫倫、孫叔瀛編『中国精怪故事』上海文艺出版社、1995年。
鳥	妹が夫の夢に現れ、生き返る方法を教える。	姉が死んでガマになる。夫婦団らん。		花県民間文学三套集成工作領導小組編『中国民間故事集成 広東卷 花県資料本』1987年。
鳥→竹	乞食の婆が竹の筒をもらって帰ると、娘になり家事をする。	娘と蛇郎が再会する。蛇郎が偽の妻を殺す。		宋文坤編『民俗選粹』遼寧大学出版社、2001年。
鶯	鶯が小間物を売る男の竹の筒に入る。妹になり御飯を作る。	娘と蛇郎が再会する。姉が自殺する。		中国民間文学集成全国編輯委員会『中国民間故事集成 広東卷』中国 ISBN 中心、2006年。
鳥→竹→櫛→はさみ	はさみが妹になり、御飯を作る。蛇郎の助けで、戻の姿に戻る。	姉がびっくりして死ぬ。		中国民間文学集成全国編輯委員会『中国民間故事集成 広東卷』中国 ISBN 中心、2006年。
鳥→竹	蛇郎が隣の婆に贈った竹の筒から美人が出てくる。	姉がきれいになるために、隣の美人の教えた通りに熱湯に入ったら死ぬ。蛇郎が隣の美人と結婚する。		蘇勝興他編『瑶族民間故事選』上海文艺出版社、1980年。
鳥→竹	竹が娘になり、家事をしたり、機を織ったりする。蛇郎に戻の姿に戻る方法を教える。	姉が自殺する。夫婦団らん。		包玉堂主編『佤族民間故事』漓江出版社、1982年。
キジバト→竹	隣の婆が炭をもらって帰ると、妹になり御飯を作る。	蛇郎が熱い鍋を跳び越えられるかを試し、本当の妻を見分ける。偽の妻が死ぬ。夫婦団らん。		劉守華他編『中国民間故事精選』華中理工大学出版社、1993年。

	採集地	伝承民族	題目	男主人公の求婚	娘の嫁入り	幸せな暮し	妹を殺害する
16	福建省廈門市	漢族	蛇郎君	父親が花を摘むと蛇が現れ、娘を嫁にもらわれないと殺すと脅迫する。	下の娘が承知する。	幸せに暮らす。	姉が妹を井戸の中へ突き落して殺す。
17	福建省永春県	漢族	蛇郎君	父親が花を摘むと蛇が現れ、娘を嫁にもらわれないと殺すと脅迫する。	三番目の娘が承知する。菜種を蒔きながら嫁入りする。	幸せに暮らす。	姉が妹を井戸の中へ突き落して殺す。
18	福建省周寧県	漢族	蛇郎の結婚	蛇が二人姉妹に求婚する。	下の娘が承知する。	幸せに暮らす。	姉が妹を井戸の中へ突き落して殺す。
19	福建省閩南地域	漢族	蛇郎	蛇が三人の姉妹に求婚する。	三番目の娘が承知する。	幸せに暮らす。	二番目の姉が妹を井戸の中へ突き落して殺す。
20	湖北省西部	トゥチャ族	蛇郎	蛇が二人姉妹に求婚する。	下の娘が承知する。	幸せに暮らす。	姉が妹を井戸の中へ突き落して殺す。
21	湖北省長陽県	トゥチャ族	蛇婿	父親が畑を耕してくれた者に娘をやると言う、蛇が耕してくれる。	下の娘が承知する。ゴマを蒔きながら嫁入りする。	幸せに暮らす。	姉が妹を堰の中へ突き落して殺す。
22	湖南省洪水市	漢族	三妹と蛇郎	父親が花を摘むと蛇が現れ、娘を嫁にもらう約束をして花をくれる。	三番目の娘が承知する。	幸せに暮らす。	一番目の姉が妹を井戸の中へ突き落して殺す。
23	湖南省双牌県	漢族	菜花蛇	父親が花を摘むと蛇が現れ、娘を嫁にもらう約束をして花をくれる。	三番目の娘が承知する。ゴマを蒔きながら嫁入りする。	幸せに暮らす。	一番目の姉が妹を井戸の中へ突き落して殺す。
24	河南省	漢族	二梅と蛇郎の結婚	蜜蜂が蛇に頼まれて求婚する。	下の娘が承知する。菜種を蒔きながら嫁入りする。	豊かな生活をする。	姉が妹を井戸の中へ突き落して殺す。
25	広東省花県	漢族	美女と蛇	父親が花を摘むと蛇が現れ、娘を嫁にもらわれないと放さないと脅迫する。蛇の正体が竜王子である。	七番目の娘が承知する。	幸せに暮らす。	一番目の姉が妹を井戸の中へ突き落して殺す。
26	広東省恵来県	漢族	蛇郎の故事	父親が花を摘むと蛇郎が現れ、娘を嫁にもらう約束をして花をくれる。	三番目の娘が承知する。	幸せに暮らす。	二番目の姉が妹を井戸の中へ突き落して殺す。
27	広東省揭西県	漢族	三妹と蛇の結婚	蛇が父親を捕まえ、彼に一人の娘をくれることを承諾させられる。	三番目の娘が承知する。	幸せに暮らす。	一番目の姉が妹を井戸の中へ突き落して殺す。
28	広東省連山壮族瑶族自治県		蛇郎	父親が花を摘むと蛇郎が現れ、娘を嫁にもらう約束をして花をくれる。	七番目の娘が承知する。	幸せに暮らす。	一番目の姉が妹を井戸の中へ突き落して殺す。
29	広西省金秀ヤオ族自治県	ヤオ族	蛇郎	娘が蛇に畑を耕してもらう。また、強盗を退治してもらう。蛇が求婚する。	下の娘が承知する。	幸せに暮らす。	姉が妹を井戸の中へ突き落して殺す。
30	広西省羅城	ムーラオ族	七妹と蛇郎	父親が木を倒してくれた者に娘をやると言う、蛇が木を倒してくれる。	七番目の娘が承知する。	幸せに暮らす。蛇が実は龍王子である。	一番目の姉が妹を井戸の中へ突き落して殺す。
31	広西省臨桂県	チワン族	蛇郎	父親が木を倒してくれた者に娘をやると言う、蛇が木を倒してくれる。	三番目の娘が承知する。	幸せに暮らす。	一番目の姉が妹を井戸の中へ突き落して殺す。

妹の転生	妹の蘇生	結末	備考	出典
鳥→芭蕉	芭蕉が妹になる。	姉が自殺して、黄褐色の虫になる。夫婦団らん。		岩温扁編『中華民族故事大系 第12巻』上海文芸出版社、1995年。
	蛇が口から紅い玉を吐きだして、娘を生き返らせる。	夫婦団らん。		楊通山他編『救太陽 侗族民間故事精選』廣西民族出版社、2002年。
コウライ 鶯 →竹	隣の婆が竹の筒を拾って帰ると、娘になり、御飯を作ったり、機を織ったりする。	娘が婆に頼んで、蛇郎を招待する。夫婦が再会できる。姉が恥ずかしくて海に飛び込んで死ぬ。		張声震主編『壮族神話集成』廣西民族出版社、2007年。
	妹が年取った漁師に救われる。	妹が竜宮に帰る。姉が陰謀が暴露したので、恥ずかしくて自殺する。		黎淋編『壮族故事荟萃』香港天馬出版有限公司、2005年。
	亀が娘を救う。	亀と娘は姉を殺す。		『中国民族問題資料・档案集成』編輯委員會編『中国民族問題資料・档案集成 第5輯』中央民族大学出版社、2005年。
鳥→果樹→ 月琴	南海観音が娘を救う。	姉が恥ずかしくて自殺する。夫婦団らん。		管樹華主編『中国民間文学集成 攀枝花市故事卷』四川民族出版社、1990年。
雀→桃の木	桃から娘が出てくる。	姉が怖くて死ぬ。夫婦団らん。		鐘敬文主編『中国民間故事集成 四川卷 上』中国 ISBN 中心、1998年。
	蛇郎が娘を復活させる。	二人の姉がおぼれ死ぬ。		鐘敬文主編『中国民間故事集成 四川卷 上』中国 ISBN 中心、1998年。
コウライ 鶯 →キイチゴ	隣の婆がたきぎをもらって帰ると、たきぎが簪になる。簪が娘になり、御飯を作る。	妹がまずい料理をして蛇郎を招待し、真実を訴える。姉娘が恥ずかしくて逃げる。夫婦団らん。		張力主編『羌族民間故事選』羌族文学編輯部、2001年。
鳥→イラク サ→サン ショウの木 →果樹	隣の婆が火をもらって帰ると、はさみになる。はさみが娘になり、家事をする。	蛇郎と娘が再会する。姉が熱湯に飛び込んで死ぬ。		苗青主編『西部民間文学作品選 1』貴州民族出版社、2003年。
鳥→木→カ ラスガイの 殻	妹が竜宮の女に救われる。殻から出て来て、家事をする。	蛇郎が娘を発見する。姉がおぼれて死ぬ。夫婦団らん。	妹の転生と蘇生が前後する。	『山花』文芸月刊社編輯委員會編『阿秀王』作家出版社、1958年。
蛇郎も井戸 の中に跳び 込む。二人 はキジにな る。子供が 鳥になる。		姉が飢え死になる。		苗族文学史編写組編『民間文学資料 第19集 布依族神話伝説故事』中国作家協會貴陽分会、1959年。
鳥	鳥が娘になる。	姉が川に落ちて死ぬ。夫婦団らん。		李万增編『娘花与太陽的兒子』貴州人民出版社、1987年。
鳥→イラク サ→柿の木 →はさみ	火を借りに来た隣の婆がはさみを持って帰って切紙を作ると、娘になり、家事を手伝う。	蛇郎と娘が再会する。娘が姉を熱湯に押し込んで殺す。夫婦団らん。		燕宝、張曉編『貴州民間故事』貴州人民出版社、1997年。

	採集地	伝承民族	題目	男主人公の求婚	娘の嫁入り	幸せな暮し	妹を殺害する
32	広西省環江マオナン族自治州	マオナン族	桑妹と大きな蛇	父親が木を倒してくれた者に娘をやるというと、蛇が木を倒してくれる。	三番目の娘が承知する。	幸せに暮らす。男の子が生まれる。	次女が妹を川に押し込んで殺す。
33	広西省八江、林溪、独峒地域	トン族	蛇郎	龍王子が蛇に変身して、ハンセン病にかかった娘に求婚し、娘の病を治す。	下の娘が承知する。	幸せに暮らす。男の子が生まれる。	姉がツバキの水を妹にかける。妹が死ぬ。
34	広西省樂業県	チワン族	達七と蛇郎	母親が稲を刈り取ってくれた者に娘をやるというと、蛇がやってくれる。	七番目の娘が承知する。	幸せに暮らす。男の子が生まれる。	一番目の姉が妹を池に落として殺す。
35		チワン族	蛇郎	父親が自分の病を治してくれた者に娘をやるというと、蛇がやってきて病気を治してくれる。	下の娘が承知する。赤い米を蒔きながら嫁入りする。	蛇郎が実は龍宮の王子である。二人は幸せに暮らす。	姉が妹を川へ突き落して殺す。
36	海南省毛道郷	リー族	長女と五妹	亀が五人娘の父親に嫁を求める。	五番目の娘が承知する。	男の子が生まれる。	一番目の姉が妹を川へ突き落して殺す。
37	四川省攀枝花市仁和区	イ族	七妹と蛇郎	蜜蜂が蛇に頼まれて娘たちに求婚する。	七番目の娘が承知する。	幸せに暮らす。男の子と女の子が生まれる。	一番目の姉が妹を井戸の中へ突き落して殺す。
38	四川省大竹県	漢族	蛇郎	三人の姉妹が花を摘むと蛇が現れ、求婚する。	三番目の娘が承知する。	幸せに暮らす。	一番目の姉が妹を井戸の中へ突き落して殺す。
39	四川省納溪県	漢族	蛇郎	蜜蜂が蛇に頼まれて娘たちに求婚する。	三番目の娘が承知する。菜種を蒔きながら嫁入りする。	幸せに暮らす。	二人の姉が妹を井戸の中へ突き落して殺す。
40	四川省汶川県	チャン族	蛇の兄	父親が花を摘むと蛇郎が現れ、娘を嫁にもらう約束をして花をくれる。	三番目の娘が承知する。菜種を蒔きながら嫁入りする。	幸せに暮らす。	一番目の姉が妹を井戸の中へ突き落して殺す。
41	四川省珙県	漢族	蛇郎と禿げの女	父親が大きな石を動かしてくれた者に娘をやるというと、蛇が石を動かしてくれる。	七番目の娘が承知する。菜種を蒔きながら嫁入りする。	幸せに暮らす。	一番目の姉が妹を熱湯の中に押し込んで殺す。
42	貴州省黔東南苗族侗族自治州	ミャオ族	蛇郎と阿宜	父親が木を倒してくれた者に娘をやるというと、蛇が木を倒してくれる。	姉が猿を選ぶ。妹が蛇の妻になる。	姉と猿が苦しい生活をする。妹と蛇が幸せに暮らし、子供が生まれる。	姉が妹を川に押し込んで殺す。
43	貴州省望謨県	ブイ族	七女と蛇郎	父親が種を蒔いてくれた者に娘をやるというと、蛇がやってくれる。	七番目の娘が承知する。	幸せに暮らす。男の子が生まれる。	一番目の姉が妹を井戸の中へ突き落して殺す。
44	貴州省劍川県	トン族	三女と蛇郎	父親が大きな石を動かしてくれた者に娘をやるというと、蛇が石を動かしてくれる。	三番目の娘が承知する。菜種を蒔きながら嫁入りする。	幸せに暮らす。蛇が実は龍王子である。	一番目の姉が妹を池に押し込んで殺す。
45	貴州省	ミャオ族	蛇郎と阿宜	父親が木を倒してくれた者に娘をやるというと、蛇が木を倒してくれる。	三番目の娘が承知する。	幸せに暮らす。男の子が生まれる。	一番目の姉が妹を熱湯の中に押し込んで殺す。

妹の転生	妹の蘇生	結末	備考	出典
カササギ→はさみ→洗濯の棒→紅い魚	紅い魚が娘になり、家事をする。	姉が鉢の中の水を飲んで死ぬ。蛇郎と娘が再会する。		李徳君、陶学良編『彝族民間故事選』上海文芸出版社、1981年。
鳥→はさみ	火を借りに来た隣の婆がはさみを持って帰ると、娘になり、家事を手伝う。	蛇郎が娘を発見する。夫婦団らん。姉が蛇郎のような夫がほしくて一匹の蛇を家に連れて帰ったら、食われてしまう。		昭通県民族事務委員会、昭通県文化局編『昭通民族民間文学資料選編 第1集』1983年。
鳥	鳥が娘になる。	二人の姉が追い出される。夫婦団らん。		劉怡、陳平編『基諾族民間文学集成』雲南人民出版社、1989年。
雀→はさみ	隣の婆がはさみを捨てて帰ると、女になり御飯を作る。	夫婦団らん。山官の娘が盲目になる。		鷓鴣渤主編『中華民族故事大系 第10卷』上海文芸出版社、1995年。
ガビチョウ→はさみ→ソウシジュ	夫の夢に現れ、生き返る方法を教える。	蛇郎が姉を殺す。夫婦団らん。		鄭文学主編『永徳民族民間故事選 1』雲南民族出版社、1998年。
木蓮	木蓮の花から出てくる。	姉が怖くて逃げたら、山の崖から落ちる。夫婦団らん。		白庚勝主編『中国民間故事全書 雲南・永平卷』知識産権出版社、2005年。
雀		姉の娘が雀の骨に喉に刺されて死ぬ。妹の娘が無事である。		李忠吉主編『智慧樹』雲南科学技術出版社、2006年。
雀→果樹→丸い石	火を借りに来た隣の婆が石を持って帰って水甕の中に置くと、娘が出て来て、家事を手伝う。	娘が姉を熱湯に突き落して殺す。夫婦団らん。		張文興主編『雲南省巧家県苗族民間文学選集』2010年。
鳥→はさみ→水牛	竜王が蛇郎の夢に現れ、妻の生き返る方法を教える。	姉が水牛に突かれて死ぬ。夫婦団らん。		白庚勝主編『中国民間故事全書 雲南・南澗卷』知識産権出版社、2005年。
鳥	娘が蛇郎の夢に現れ、自分を生き返す方法を教える。	姉が怖くて階段から落ちて死ぬ。夫婦団らん。		白庚勝主編『中国民間故事全書 雲南・南澗卷』知識産権出版社、2005年。
	山の神が蜜蜂に頼まれ、二人の妹を救う。	二人の姉が逃げる。夫婦団らん。		白庚勝主編『中国民間故事全書 雲南・漾濞卷』知識産権出版社、2005年。
鶏→黄金	火を借りに来た隣の婆が黄金を持って帰ると、娘になり、御飯を作る。	隣の婆が蛇郎に真実を訴える。蛇郎が姉を川に押し込んで殺す。夫婦団らん。		陳石峻編『格頓王子甘南藏族民間故事』中国民間文学出版社、1984年。
雀→バラ→糸をよるに使う道具	火を借りに来た隣の婆が糸をよる道具を持って帰ると、娘になる。	夫婦団らん。姉が山の崖から落ちて死ぬ。		『中国民間故事集成』編輯委員会編『中国民間故事集成 青海卷』中国 ISBN 中心、2007年。
雀→バラ→棒針	火を借りに来た隣の婆が棒針を持って帰ると、娘になり、セーターを編む。	子蛇たちが二人の姉を噛んで殺す。夫婦団らん。		『中国民間故事集成』編輯委員会編『中国民間故事集成 青海卷』中国 ISBN 中心、2007年。
鳩→果樹→琴→白猫	白猫が継子になる。	継母と実子が生き返った継子を見ると怖くて淵に落ちる。継子と蛇郎が結婚して、幸せに暮らす。		『中国民間故事集成』編輯委員会編『中国民間故事集成 青海卷』中国 ISBN 中心、2007年。

	採集地	伝承民族	題目	男主人公の求婚	娘の嫁入り	幸せな暮し	妹を殺害する
46	雲南省新平県	イ族	小蘭光		下の娘が蛇郎の嫁になる。	幸せに暮らす。男の子が二人生まれる。	姉が妹と子供を殺す。
47	雲南省昭通市	ミャオ族	三妹と蛇郎	父親が大きな石を動かしてくれた者に娘をやると言う。蛇が石を動かしてくれる。	三番目の娘が承知する。	幸せに暮らす。子供が生まれる。	一番目の姉が妹を洞窟の中に押し込んで殺す。
48	雲南省景洪県	ジーソオ族	沙切と蛇郎	母親がチガヤを担げないと蛇が現れ、娘を嫁にもらう約束をさせる。	三番目の娘が承知する。	幸せに暮らす。男の子が生まれる。	一番目の姉が妹を井戸の中へ落させる。
49	雲南省	チンブオ族	一人ぼっちの女と蛇男	山官の妻が急病にかかる。山官が仙果を取ってくれる者に娘をやると言う。蛇の男が取ってくれる。	山官が家で働く女を蛇の男にやる。	幸せに暮らす。男の子が生まれる。	山官の娘が女を川に落とさせる。
50	雲南省永徳県	漢族	蛇郎	母親が草を担げないと蛇が現れ、娘を嫁にもらう約束をさせる。	三番目の娘が承知する。	幸せに暮らす。男の子が生まれる。	一番目の姉が妹を川の中へ落させる。
51	雲南省永平県	漢族	蛇郎	蜜蜂が蛇郎に頼まれて求婚する。	三番目の娘が承知する。	幸せに暮らす。子供が生まれる。	一番目の姉が妹を井戸の中へ突き落して殺す。
52	雲南省楚雄州禄豊県	イ族	四妹と蛇郎	蛇が母親を捕まえ、彼女に一人の娘をくれることを承諾させられる。	四番目の娘が承知する。	蛇が実は竜王である。女の子が生まれ、幸せに暮らす。	一番目の姉が妹を殺す。
53	雲南省巧家県	ミャオ族	蛇郎の結婚	父親が大きな石を動かしてくれた者に娘をやると言う。蛇が石を動かしてくれる。	三番目の娘が承知する。	幸せに暮らす。男の子が生まれる。	一番目の姉が妹を山の崖へ突き落して殺す。
54	雲南省南澗イ族自治州	イ族	三妹と蛇郎	父親が花を摘むと蛇郎が現れ、娘を嫁にもらう約束をして花をくれる。	三番目の娘が承知する。	幸せに暮らす。女の子が生まれる。	一番目の姉が妹を井戸の中へ突き落して殺す。
55	雲南省南澗イ族自治州	イ族	蛇郎と三姑娘	父親が花を摘むと蛇郎が現れ、娘を嫁にもらう約束をして花をくれる。	三番目の娘が承知する。	幸せに暮らす。	一番目の姉が妹を川に押し込んで殺す。
56	雲南省漾濞イ族自治州	リス族	三妹と蛇郎の結婚	蜜蜂が蛇に頼まれて求婚する。	三番目の娘が承知する。	幸せに暮らす。	一番目の姉が二人の妹を山の崖へ突き落して殺す。
57	甘粛省甘南チベット族自治州	チベット族	蛇郎	蛇が父親の落した斧を拾い出してくる。父親が娘をやると約束する。	三番目の娘が承知する。菜種を蒔きながら嫁入りする。	幸せに暮らす。子供が生まれる。	一番目の姉が妹を川に押し込んで殺す。
58	青海省民和県	漢族	蛇郎	蛇が父親の落した斧を拾い出してくる。父親が娘をやると約束する。	三番目の娘が承知する。	幸せに暮らす。	一番目の姉が妹を川に押し込んで殺す。
59	青海省湟中県	回族	仲人の蜂	蛇が父親の落した縄と釜を拾い出してくる。父親が娘をやると約束する。	三番目の娘が承知する。	幸せに暮らす。	二人の姉が妹を川に押し込んで殺す。
60	青海省互助県	トゥ族	蛇郎と仙女	継子が山へ花を摘むと蛇郎が現れ、一緒に花を見る。			継母が継子を井戸の中へ突き落して殺す。

妹の転生	妹の蘇生	結末	備考	出典
鳥→桑	夫の夢に現れ、生き返る方法を教える。	上の姉がおき火で盲目になり、石垣につぶされて死ぬ。夫婦団らん。		岩倉市郎『沖永良部島昔話』民間伝承の会、1940年。
	妹娘が隣の家に生き返る。	妹娘がまずい料理をして男を招待し、真実を訴える。姉娘がメラベ虫になる。		立命館大学説話文学研究会編集『奄美・笠利町昔話集』立命館大学文学部、1986年。
		妹娘の訴えの声を聞いて、姉娘がティンデル虫になる。	「ティンデルはきれいな娘」と唱えてつかまないと指が臭くなる。	南日本日々新聞、1972年5月13日。
		妹娘の訴えの声を聞いて、姉娘がティンデル虫になる。		長田須磨『奄美の生活とむかし話』小峰書店、1984年。
鳥	隣の婆が火をもらって帰ると、妹になり機を織る。	姉が恥ずかしくてテンドロ虫になって水瓶の下に入ってしまった。	「テンドロ美しい娘」と言うと、この虫は臭くない。	有馬英子『福島ナオマツ昔話集』自刊、1973年。
鳥→黄金	隣の婆が火をもらって帰ると、黄金になる。黄金は妹になり機を織る。	婆が殿様夫婦を招待する。女の霊が真実を訴える。姉がトラ虫になる。夫婦団らん。		山下欣一他編著『大和村の昔話』同朋舎、1986年。
鳥→木	隣の婆が木をもらって帰ると、妹になり機を織る。	婆がまずい料理をして男を招待し、真実を訴える。姉がントロ虫になる。夫婦団らん。		山下欣一、有馬英子編『久永ナオマツ嬢の昔話』日本放送出版協会、1973年。
鳥→木	隣の婆が火をもらって帰ると、妹になり機を織る。	妹娘がまずい料理をして男を招待し、真実を訴える。按司がひりや虫になり、姉がとうとう虫になる。	「妹の蘇生」と「姉の結末」についての記述が前後した。	田畑英勝編『奄美諸島の昔話』日本放送出版協会、1974年。
鳥→松の木→黄金	隣の婆が火をもらって帰ると、黄金になる。四、五日後、黄金は妹になり機を織る。	妹娘がまずい料理をして男を招待し、真実を訴える。姉が雨だれの虫になる。夫婦団らん。		崎山毅『蠅の斧：竹富島の真髓を求めて』錦友堂写植、1972年。
鳥→松の木→黄金	隣の婆が火をもらって帰ると、黄金になる。黄金は妹になり機を織る。	妹娘がまずい料理をして男を招待し、真実を訴える。姉が足がたくさん生えて雨足になって逃げて行く。夫婦団らん。		上勢頭亨『竹富島誌 民話・民俗篇』法政大学出版局、1976年。
鳥→木→黄金	隣の婆が火をもらって帰ると、黄金になる。黄金は妹になり機を織る。	妹娘がまずい料理をして男を招待し、真実を訴える。姉が雨だれ虫になる。夫婦団らん。		福田晃他編著『沖縄の昔話』日本放送出版協会、1980年。
鳥→木→黄金	隣の婆が火をもらって帰ると、黄金になる。二、三日後、黄金は妹になり機を織る。	妹娘がまずい料理をして男を招待し、真実を訴える。姉が雨だれの虫になる。夫婦団らん。		福田晃他編著『竹富島・小浜島の昔話』同朋舎、1984年。

表二 南島の例

	採集地・題目	男主人公の求婚	娘の嫁入り	幸せな暮し	妹を殺害する
一	大島郡知名町(男)・蛇婿入	父親が薪を担げないと蛇が現れ、娘を嫁にもらう約束をして担いでくれる。	三番目の娘が承知する。	蛇はりっぱな男になり、娘と幸せに暮らす。	上の姉が嫉妬し、三日目の親見参の途中、妹を溜め池に入らせて殺す。
二	大島郡笠利町宇宿(男)・偽の花嫁	母親が川を渡れないでいると蛇が現れ、娘を嫁にもらう約束をして渡してくれる。	妹娘が承知する。豆を蒔きながら嫁入りする。	蛇は実は神さまである。二人は幸せに暮らす。	
三	大島郡大和村大和浜(男)	母親が川を渡れないでいると按司が現れ、娘を嫁にもらう約束をして渡してくれる。	三番目の娘が承知する。菜種を蒔きながら嫁入りする。	幸せに暮らす。	姉が妹を風呂に押し込んで殺す。
四	大島郡大和村大和浜(女)・ティンデル虫	母親が川を渡れないでいると按司が現れ、娘を嫁にもらう約束をして渡してくれる。	三番目の娘が承知する。菜種を蒔きながら嫁入りする。	幸せに暮らす。	姉娘が妹を風呂に押し込んで殺す。
五	大島郡大和村津名久(女)・按司がなし	父親が川を渡れないでいると按司が現れ、娘を嫁にもらう約束をして渡してくれる。	三番目の娘が承知する。	幸せに暮らす。	姉が妹を水の中に押し込んで殺す。
六	大島郡大和村大和棚(女)・按司加那志	母親が川を渡れないでいると殿様が現れ、娘を嫁にもらう約束をして渡してくれる。	三番目の娘が承知する。菜種を蒔きながら嫁入りする。	幸せに暮らす。	姉娘が妹を川に押し込んで殺す。
七	大島郡宇検村生勝(女)・按司がなし			妹と按司が幸せに暮らす。	姉が妹を水の中に押し込んで殺す。
八	大島郡瀬戸内町勝浦(女)・按司ぎゃなし	母親が川を渡れないでいると按司が現れ、娘を嫁にもらう約束をして渡してくれる。	三番目の娘が承知する。菜種を蒔きながら嫁入りする。	立派な暮らしをする。	姉が妹を水の中に押し込んで殺す。
九	八重山郡竹富町竹富島(女)・正しき道は勝つ	母親が薪を担げないと按司が現れ、娘を嫁にもらう約束をして担いでくれる。	二女が承知する。	二人は幸せに暮らす。	姉が妹を井戸の中へ突き落して殺す。
十	八重山郡竹富町竹富	母親が薪を担げないと按司が現れ、娘を嫁にもらう約束をして担いでくれる。	次女が承知する。	二人は幸せに暮らす。	姉が妹を井戸の中へ突き落して殺す。
十一	八重山郡竹富町竹富島(男)・按司と姉妹	母親が薪を頭に乗せることが出来ないと按司が現れ、娘を嫁にもらう約束をして薪を頭にのせてやる。	次女が承知する。	二人は幸せに暮らす。	姉が妹を井戸の中へ突き落して殺す。
十二	八重山郡竹富町竹富島(男)・按司の身代り花嫁	母親が薪を担げないと按司が現れ、娘を嫁にもらう約束をして担いでくれる。	妹娘が承知する。	幸せに暮らす。	姉が妹を井戸の中へ突き落して殺す。

## 注

- (1) ヴォルフラム・エーバーハルト『中国民間故事類型』一九九九 商務印書館
- (2) 丁乃通『中国民間故事類型索引』一九八六 中国民間文芸出版社
- (3) 金榮華『中国民間故事集成類型索引』二〇〇〇 中国口伝文学学会
- (4) 稲田浩二、小澤俊夫編『日本昔話通観』一九七七〜一九九〇 同朋舎
- (5) 劉守華『蛇郎故事比較研究』『民間文学論壇』一九八七年第三期。
- (6) 于長敏「蛇郎型故事」『中日民間故事比較研究』一九九六 吉林大學出版社
- (7) 初出は飯倉照平編『雲南の民族文化』(一九八三 研文出版)、原題は「イ族の伝承文芸」である。その一部の中国語訳は「围绕蛇郎和竜女談彝族民間故事的源流(イ族の昔話の底流——蛇婿入りと竜宮女房をめぐる)」と題して、『山茶』一九八五年第五期に掲載された。
- (8) 稀に見られる。『日本昔話通観』に収録された蛇婿入りのたくさん例の中に、蛇郎との幸せな結婚の例が四つしかない。
- (9) 岩倉市郎『沖永良部島昔話』一九四〇 民間伝承の会
- (10) 立命館大学説話文学研究会編集『奄美・笠利町昔話集』一九八六 立命館大学文学部
- (11) 関敬吾『日本昔話大成 第五卷』一九七八 角川書店
- (12) 福田晃「昔話「偽の花嫁」の行方」『南島説話の研究』一九九二 法政大学出版局
- (13) 稲田浩二『日本昔話通観 第二八卷』一九八八 同朋舎
- (14) 『中国民間故事集成』編輯委員会編『中国民間故事集成 雲南卷 上巻』二〇〇三 中国 ISBN 中心
- (15) 劉体操「古滇国与蛇文化——李家山青銅芸術探索」『往日詩文』二〇〇五 雲南民族出版社
- (16) 羅香林「古代百越分布考」『中夏系統中之百越』一九四三 獨立出版社
- (17) 「神の蛇」(チャンヴェトキン編、本多守訳『ヴェトナム少数民族の神話』二〇〇〇 明石書店)
- (18) 「蛇郎君」(施翠峰『台湾の昔話』一九九七 三弥井書店。施翠峰「台湾昔話と華南との関係」白田甚五郎、崔仁鶴編『東北アジア民族説話の比較研究』一九七八、桜楓社)
- (19) 吉野裕子『蛇——日本の蛇信仰』一九九九 講談社
- (20) 小澤俊夫「蛇婿入り譚の分析」『国文学 解釈と鑑賞』一九八〇年十二月 至文堂
- (21) 福田晃「昔話「偽の花嫁」の行方」(『南島説話の研究』一九九二 法政大学出版局 四三三〜四五六頁)

注に記したものの以外の参考文献

中国語

鐘敬文「蛇郎故事試探」『鐘敬文民間文學論集 下』一九八五

上海文芸出版社

魏橋主編『國際百越文化研究』一九九四 中國社會科學出版社

劉魁立「中國蛇郎故事類型研究」『劉魁立民俗學論集』一九九八

上海文芸出版社

劉守華「閩台蛇郎故事的民俗文化根基」『民間文學論壇』

一九九五年第四期

「兩姊妹と蛇丈夫——蛇郎故事的中華文化特色」『湖北民族學院

學報（哲學社會科學版）』二〇〇一年第一期

「蛇郎故事在亞洲」『比較故事學論考』二〇〇三 黑龍江人民出版社

社

日本語

関敬吾「蛇蟬入譚の分布」『関敬吾著作集 日本昔話の比較研究

第四卷』一九八〇 同朋舎

（よう・せいほう／東京学芸大学大学院）